2020

Annual Report

フィリピン　カオハガン島

Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶 1
活動地紹介 2
バヌアツ共和国 COVID−19 における現状 4
フィリピン　カオハガン島 COVID−19 における現状 6
JDM のボランティア活動史 9
ジャパン　デンタル　ミッションについて 19
協力者名簿 20
役員紹介 21

代表理事挨拶

代表理事　沢田　宗久

はじめに

バヌアツ共和国が１９８０年に独立して３年後１９８３年から我々の活動が始まりました。今年で３８年目になります。当初は、バヌアツ共和国での活動が主でしたが、１９９６年からフィリピン共和国のカオハガン島での活動も加わり、現在では、３月にフィリピン、７月にバヌアツ、１１月にフィリピンと年３回海外での活動が定着してきました。

２０１９年９月頃から中国の武漢で発生したコロナウイルスが２０２０年には瞬く間に世界中に猛威を振るい拡がりました。

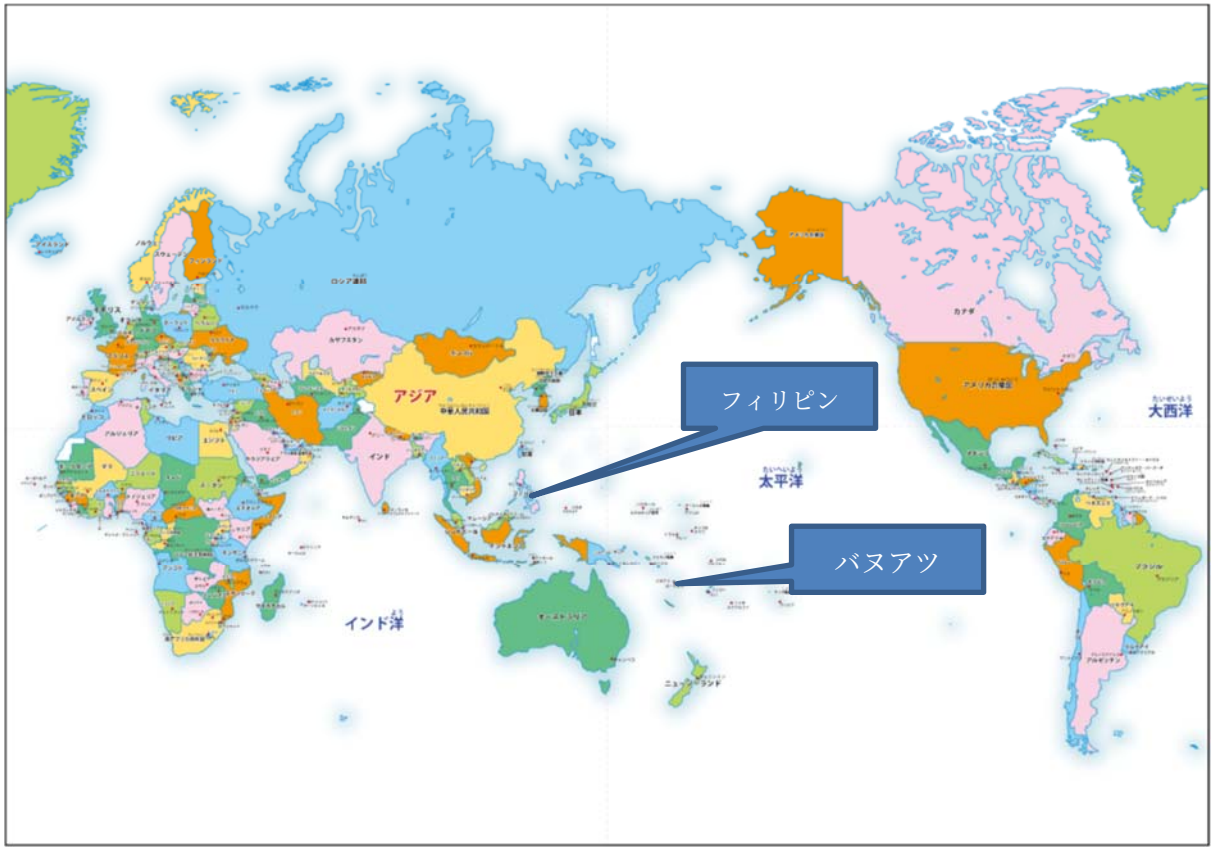
ＪＤＭは３月にいつも通りフィリピン共和国カオハガン島での活動を予定していましたが出発１週間前にフィリピン共和国政府から入国許可が降りず、やむを得ず活動を断念致しました。
又、７月のバヌアツ共和国ペンテコスト島での活動も、バヌアツ政府が国境を閉鎖した為活動が中止となりました。バヌアツでの感染者数は、今のところ数名ほどと聞いております。

１１月のフィリピン共和国カオハガン島での活動も中止となりました。
国内の活動として八尾市立竹渕小学校での出前授業もコロナ禍の影響で中止となりました。又、以前からＪＤＭが色々とお世話になっております八尾ロータリークラブから八尾消防署にある救急車を寄付したいとの話があり、バヌアツ政府に問い合わせると、セントラルホスピタルに是非欲しいとの要望があった為、船便で送るところまで話しは進んでいましたが、コロナ禍の影響で中断となっています。

ＪＤＭの活動は主にバヌアツ共和国とフィリピン共和国カオハガン島が中心でありますので出来ないのがとても残念でなりません。本来ならアニュアルレポートには海外での活動をメインに掲載したいのですが、今年度は活動が出来なかったので、今回は今までの活動の歴史をまとめました。

１日も早くコロナワクチンが世界中に供給され、以前のような生活に戻り、活動が出来ることを願っています。引き続き皆様方のご理解とご協力ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

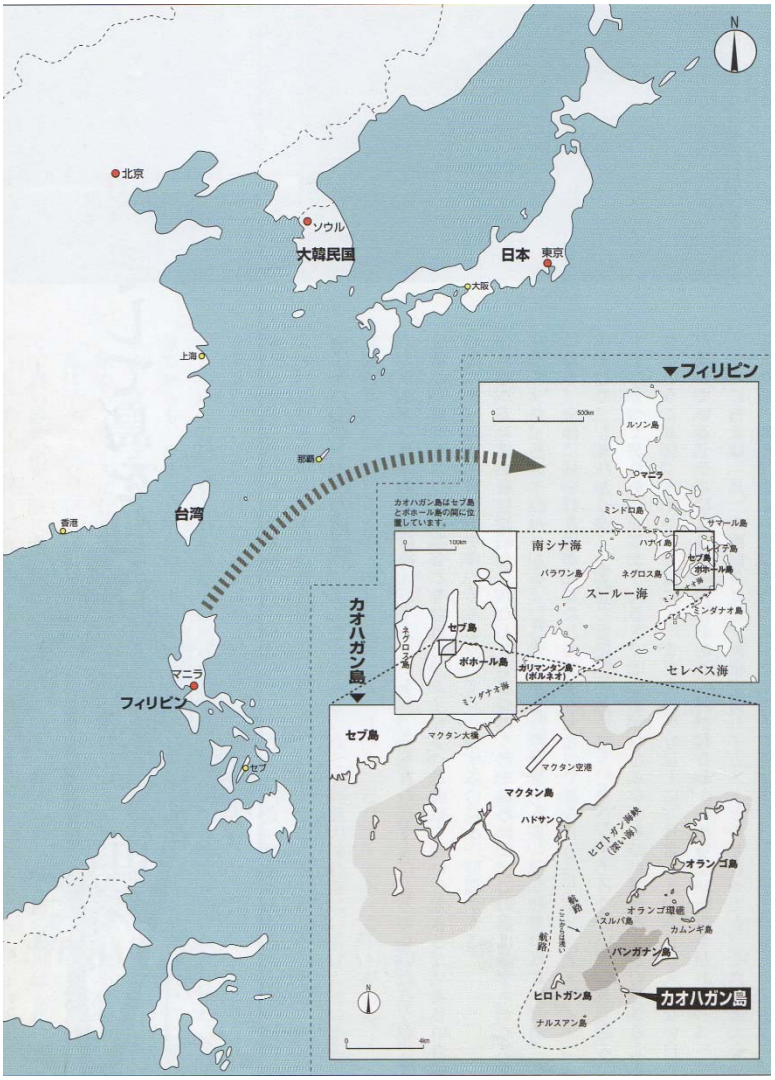
活動地紹介



バヌアツ共和国

紹　　介：約 83 の島々から成り立つ
人　　口：約 29 万人
首　　都：ポートヴィラ（エファテ島）
言　　語：ビシュラマ語、英語、仏語
通貨単位：バツ（１バツ＝約１円）
宗　　教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：70 歳
生 産 物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活 動 地：ペンテコスト島

フィリピン共和国



紹　　介：７，１０９の島々から成り立つ
人　　口：約１億１００万人
　　カオハガン島の人口は約６５０名
首　　都：マニラ（ルソン島）
言　　語：フィリピノ語、英語、ビサヤ語
通貨単位：フィリピンペソ（１ペソ＝約２.５円）
宗　　教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：71 歳
生 産 物：バナナ
活 動 地：カオハガン島

バヌアツ共和国 COVID-19 における現状

現在の感染者状況

2020 年 11 月 11 日　一名確認
2021 年 3 月 6 日　二名確認

当初 3 月 26 日に発令された非常事態宣言であったが、まだまだ世界的に収束していないため、2021 年 7 月 31 日まで期間が延長されることとなった。
感染者一名が確認された直後、臨時便での入国者に対し、施設での隔離期間が 28 日間へ延長となったが、すぐに解除となり、以前の 14 日間に戻った。

政府の対応

・世界的にコロナウイルスが注目され、南太平洋地域で感染が広がる前に、**国境を閉鎖**
・非常事態宣言を発令し、一定期間、外出や商業の時間制限、店の入り口に水道設置の義務付けなどを徹底
・給与が一定未満の労働者への給付金付与

～非常事態宣言　主な内容～

▪人々が午後 9 時から午前 4 時の間に外出することを禁止する。
▪５人以上が集まる全ての社会的集会を行うことを禁止する。
▪全ての経済活動は午後 7 時 30 分以降禁止される。
▪バヌアツにある全ての公共交通機関とガソリンスタンドは、午後 9 時以降の営業を禁止する。
▪国家災害対策本部（NDMO）の講じる対策や指示の遵守
2020 年 4 月 14 日付けで、経済活動や、外出時間の制限は解除された。
数名のコロナ患者は全て隔離施設内での発症であり、感染拡大を防いでいるバヌアツでは、現在もマスクなしで、コロナ前とほとんど変わらない生活を送ることができる。

観光業界の現状

国境を閉鎖して約一年、コロナウイルスの感染拡大は防げたものの、観光業界へのダメージが非常に大きいバヌアツ。

ツアー会社はもちろん、ホテル、リゾートのほとんどが閉店している。
▪首都ポートビラで現状通常営業している主要ホテル
・メラネシアンホテル
・グランドホテル
・モーリングスホテル
・カイヴィティモーテル
※その他営業日を制限しているホテル、リゾートあり
※帰国者用の隔離施設となっているホテルは多数（通常は閉店）

7 月いっぱいで非常事態宣言が解除される予定のバヌアツ。
国境がついに開くのか、まだ様子を見るのか。
まだまだ旅行をするには厳しそうな現状であるが、観光産業者の誰もが一刻も早いコロナウイルスの収束を願っている。

※その他営業日を制限しているホテル、リゾートあり
※帰国者用の隔離施設となっているホテルは多数（通常は閉店）

フィリピン　カオハガン島 COVID−19 における現状

JDM の皆さま、こんにちは！

2020 年は、新型コロナウイルスの感染拡大で、世界が異常な事態となってしまいました。
フィリピンも感染拡大防止のため、ロックダウンなどの大胆な政策に翻弄された 1 年となりましたが、日本も感染拡大だけでなく、様々な影響が及んでいることをときどき入ってくるニュースで知り、島民と一緒に心配をしていました。
一刻も早く、事態が終息に向かい、コロナが明けたころには、それ以前よりも良い社会に生まれ変わっていることを祈るばかりです。

さて、長年に渡り、JDM の皆さまに 55 回ものデンタルミッションをしていただいてきましたカオハガン島も、コロナの影響を受けてしまいました。
カオハガン島は近年、観光業が主な産業になっていましたが、コロナの影響で、観光客を受け入れられなくなってしまい、収入が途絶えてしまったのです。
JDM の皆さまをいつも受け入れさせていただいている宿泊施設「カオハガンハウス」もゲストを受け入れることができなくなってしまいました。

収入が途絶えてしまった島民たち。以前はお金をほとんど使わない暮らしをしていましたが、セブ島を中心とした周辺の島々にも貨幣経済が行き渡ってきたのに伴って、カオハガン島の暮らしも変わってきていました。
お金が必要な暮らしに慣れ始めている島民たちの収入が無くなってしまったらどうなるのか…？
そんな私たちの心配をよそに、島民たちは昔そうしていたように、海に食べ物を捕りに行くようになりました。
昔の暮らしを知らない若者たちも、お父さんや親戚のおじさんやお兄さんなどから魚の捕り方を習って、家族を支えるために海に出るようになったのです。
そのたくましさ、生きる力の強さに私たちは感動せざるを得ませんでした。
また、島全体がひとつの家族と形容されるように、お互いに意識を配り合い、自分よりも暮らしが厳しい人がいればおかずを分けたりして助け合うという姿が以前にも増して見られるようになりました。
見返りを期待するのではなく、相手を思いやり、手を差し出すということ。
やはり、カオハガン島というコミュニティは愛で成り立っているのだということを教えられています。
生活は苦しくなっても、笑顔を絶やさない島民たちに、どれだけ救われてきたことでしょう。

子どもたちは、対面式の授業は受けられていませんが、宿題を結局ひとつの家に集まってやり、密になりながら答えを教え合っています（笑）
収入が途絶えたとは言え、カオハガン島の島民たちは、自分たちらしさをまったく失わず、力強く、明るく、幸せに生きています。

そうは言っても、どうしてもお金が必要な場面は多々あります。政府からときどき金銭的な支援があるようで、それは大きな助けになっているようです。

私たちカオハガンハウスとしても、村長とミーティングを重ねて島民の様子を確認しながら、この前代未聞の危機にどのように対処するか模索してきました。
まず、これまで長年に渡って行ってきた、珊瑚礁保護区の管理や奨学金制度、医療費の補助や学校や村へのサポートなどを継続すること、そして、収入が途絶えてしまった島民の暮らしの最低限のニーズを満たすことを目指すことになりました。
しかし、カオハガンハウスも収入が無くなってしまったため、2020 年の 4 月に SNS でご支援を募らせていただきました。
JDM さまからも、島民の医療に役立ててほしいと、ご支援金を頂戴いたしました。この場をお借りして、御礼申し上げます。
いただきましたご支援金は、歯ブラシ（ひとり 1 本）と歯磨き粉（ひと家庭 1 本)、食糧支援に使わせていただきました。
また、不足していた痛み止めや抗生物質といったお薬も日本からお送りいただきました。ニーズが高まっていたため、とても助かっております。ありがとうございました。

カオハガンハウスでは､島民の収入の道を少しでも残すため､島の名産であるカオハガンキルトの買取を継続することにしました｡多くの方にキルトをお買い求め安くするため､また島民のキルターから買い取ったキルトを販売するために､5 月から本格的にオンラインショップでの販売を開始しました。
キルト以外にも島のお土産をご購入いただけるようになっております。
是非下記のサイトをご覧くださいませ。
https://caohagan.thebase.in/

次に、2020 年 10 月に「オンラインコミュニティ」を開設いたしました。
会員登録をしていただき、毎月会費をお支払いいただくことで、facebook の会員様限定のグループ内で、崎山夫妻や島在住の日本人スタッフのコラム、島の暮らしを映した動画など、様々なコンテンツをご覧いただけるようになっています。
すでに 40 名を超える方に会員登録をいただいております。
このオンラインコミュニティの収益も、上記の島民へのサポートに使わせていただいております。

詳しくはこちらをご覧くださいませ。
https://community.camp-fire.jp/projects/view/338306

2021 年 1 月には、カオハガンハウスの再オープンに向けて、クラウドファンディングをさせていただき、こちらも本当にたくさんの方にご支援をいただくことができました。

たくさんの方のご支援やお気持ちのおかげで、島民の最低限のニーズを満たすためのサポートを継続し、カオハガンハウスの再オープンのための準備を始めることができております。
本当にありがとうございます。

以上のように、カオハガンハウスでは、お客様に島にお越しいただくことはできなくなってしまいましたが、日本の皆さまに島の豊かさを受け取り続けていただくために、新しい取り組みに挑戦してまいりました。
その過程で、本当にたくさんの方が島を愛し、そして同時に、多くの方々が島の存在に支えられてきたことを知ることができました。
まだまだコロナの影響は続くと言われています。
ですが、コロナが落ち着いたときに、また皆さまを「お帰りなさい」とお迎えできるように、カオハガンハウスを守っていかなければと改めて身を引き締めております。

この期間に、村長を中心とした島民たちとのコミュニケーションがとても増えました。
これからも、島民みんながひとつの家族としてお互いに助け合って生きていくことの大切さ、そして、日本の皆さまとの絆があってこそのカオハガン島であることも確認することができました。
JDM の皆さまには、歯科医療だけでなく、島民の健康や暮らしを気遣っていただくという「想い」をたくさんいただいていたのだということに気づかされました。
本当に、島民共々、皆さまのことを恋しく思っております。
少しでも早くコロナが終息し、また皆さまにお戻りいただける日を心待ちにしております。

どうか皆さまもお身体には十分お気をつけて、健やかにお過ごしくださいませ。
カオハガン島から皆様のご多幸とご健康をお祈りしております。

カオハガンハウス
杉浦佑子、サラザーエラミル嘉恵、畠中佐和子

JDM のボランティア活動史

富田　真仁

はじめに

JDM 会員各位

いつも JDM の活動にご協力いただきありがとうございます。2020 年は COVID-19 によるパンデミックに振り回された年でした。JDM も海外ボランティア活動はおろか、定例の理事会も満足に開催できませんでした。私事ですが私も 2020 年 2 月終盤に日帰りで大阪に行って以来、県外にすら出ておりません。

2021 年になってもこの状態は続いており、残念ながら 3 月のフィリピン共和国は中止、7 月のバヌアツ共和国の活動も中止となりました。

いいチャンスなので、私もパンデミック関係、疫学関係の書籍や小説を読みました。人類の歴史に感染症の流行はしばしば登場しますが概ね数年以内に収束しています。2021 年 11 月に活動再開出来ることを期待しております。

我が家では、今回の流行に際して息子たちに『手洗いを』徹底させています。するとどうでしょう！**『子供が全く風邪をひかなくなりました』**

手洗って大事なんですね！「医療関係者が感心するな！」と言われそうですがあらためて基本的な予防法の重要性に気づかされました。今後のバヌアツでの『手洗の普及』事業に対する良いモチベーションになりそうです。

2020 年は海外活動を出来なかったため、報告する内容がないため過去に遡り JDM のボランティア活動史をご紹介したいと思います。

【黎明期】

1982 年、歯科医師の沢田が理事を務めていた一般社団法人南太平洋協会を通じてバヌアツ共和国のことを知りました。 ヨットでたまたま立ち寄ったバヌアツ共和国という独立してまもない国、その地の人々の穏やかで人懐っこい性格、貧しくても英仏両国の統治から独立した喜びにあふれている事云々・・・ しかし国民の健康状態は芳しくなく眼や歯の悪い人が多く困っている状況があることを聞き、「一度行って診てあげたら？」の言葉に腰をあげることになりました。 バヌアツ共和国は南太平洋ニューカレドニア島の北にある83の島々からなる国です。人口は約29万人、首都はエファテ島のポートヴィラ。言語はビシュラマ語、英語、仏語です。通貨はバツ（1バツ＝約1円）で国民のほとんどはキリスト教徒です。

1983 年、眼科医の岩崎氏と共に『バヌアツに医療を送る会』に歯科医師として沢田宗久（現 JDM 代表理事）が参加し、バヌアツ共和国での活動を開始しました。当時はバヌアツ国内の移動手段が限られていて、船で島から島へ渡ったこともあったそうです。

『バヌアツに医療を送る会』は眼科と歯科の協同活動を行っていましたが、歯科医療活動は沢田一人が抜歯を行う状態でした。その後、現地の人々の口腔機能回復を目的として歯科技工士の河内光明（現 JDM 理事）が同行するようになりました。参加希望者は年を追うごとに増え、歯科医師、歯科技工士のみならず歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がっていきました。

初期は抜歯のみの治療しか出来ませんでしたが、少しずつ機材を持ち込み、入れ歯の製作、う蝕治療、ブラッシング指導を行うことができるようになりました。

【NGO 南太平洋に歯科医療を育てる会の設立】

当初は『バヌアツに医療を送る会』として眼科と歯科の協同活動を行ってきましたが、11 年が過ぎ、歯科部門のボランティア協力者と現地の患者様が増えてきました。さらなるグローバルな活動を行うため、1994 年に分離独立して『南太平洋に歯科医療を育てる会』を新たに設立し、より現地の実状に即した活動を行うこととなりました。

年を重ねる毎に参加する人の輪が広がり、歯科に従事するメンバーだけでなく、ボランティアとして活動に協力してくれる人も加わり、大阪を中心とするメンバーと東京を中心とするメンバーを組織して、年2回の活動が行えるようになりました。

歯を抜いて義歯を装着する治療から児童、生徒の虫歯の増加抑制や歯をできるだけ抜かない治療や公衆衛生の普及などにも目を向けた活動が今後必要となってきています。その為にも現地の治療機械の充実と、現地人の医療スタッフの育成が急務の課題です。その為に本会がどのようなお手伝いができるのか、バヌアツ共和国厚生省とコンタクトを取りながら将来を見据えて行きたいと思っています。“

2018 年より JDM はペンテコスト島にて活動していますが、1990 年代はニューヘブリデス諸島の北部、ペンテコスト島の西に位置するマレクラ島の Norsup 病院を拠点に診療していました。

1995 年のデータのざっと内訳を示すと、Norsup 病院外来診療では抜歯 287 本、充填 27 歯、義歯製作 29 床、その他で、抜歯が治療の主体であることがわかります。また、巡回診療でも学童検診と抜歯を行なっていました。

1998 年になると外来診療では抜歯 143 本、充填 30 歯、義歯製作 24 床となり充填、義歯の割合が増えてきています。またマレクラ島の小学校、中学校を定期的に巡回検診するようになりました。これにより年齢、性別のう蝕罹患状態、DMFT 指数を算出し報告できるようになりました。

マレクラ島での検診活動は 2011 年まで吉竹（当時 JDM 理事）を中心に継続しました。

ネットが発達した現在、バヌアツ共和国のう蝕、口腔衛生などの検索をすると調べれば調べるほど、JDM の HP が上位に出てきます。

我々の主たる活動は海外歯科医療ボランティアですが、1980 年代後半より日本国内でも積極的に活動しています。

ロータリークラブ、大学、歯科関係団体やマスコミに対する講演、及び投稿は 1980 年代よりスタートしました。

関西地区の小学校とバヌアツ共和国の小学校との絵画交換事業なども現在まで継続的に行われています。

また、各企業の協力による寄付活動（クレヨン、画用紙、ボール、洋服、歯ブラシなど）も当時から活発に行われていました。

【カオハガン島での医療活動開始】

1996 年、フィリピン共和国カオハガン島オーナーの崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始することになりました。

カオハガン島はフィリピン共和国のセブ島の東側に位置するオランゴ環礁内にあるドーム球場ぐらいの面積の島です。島のオーナーである崎山克彦氏は退職後、島に移住しコテージを経営しながら島民と共生し、多くの書籍やメディアで紹介されています。当時の島民の数は 350 名ほどでしたが現在では 650 名ほどまでに増加しています。

フィリピン共和国の DMFT 4.4(2003 年)は世界的にみても高い数値です。(参考　日本:DMFT 1.1 ,2012 年) 近年フィリピン共和国の経済発展は著しく、島内の雑貨屋でも甘味を入手容易な環境となって来ています。

フィリピン共和国の 6 歳児 DMFT は 8.4(2006 年)です。この数値は 30 代後半になると DMFT15.4(1998 年)まで増加します。

フィリピンでの活動は計画的に行うため、沢田の現地調査からはじまりました。少人数の編成で検診、治療をはじめました。2 年ほど経過の後、現地のラプラプ市長を公式訪問した結果、市の公認の活動となりました。

1998 年の4回目の活動時は島民全体のカルテを作ることを目的として大規模な検診を行いましたが、なかなか現地の理解を得ることができず(歯医者に行くのが怖いのは万国共通です)120 人ほどのカルテしか制作できませんでした。この結果、口腔衛生に対する啓蒙活動が必要なことを痛感し、小学校訪問などの現在まで続く事業につながっています。

【NPO 法人 Japan Dental Mission の設立】

1983 年にバヌアツで始まった活動も 20 年あまりになりました。1996 年からはフィリピン共和国での活動も加わり、バヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年3回の活動を継続しています（2003 年の時点）。

今後『南太平洋に歯科医療を育てる会』がより発展し、社会的に認知されるためにも「法人化すべし」との意見が増えてきたため、2003 年 1 月 17 日より『NPO 法人 Japan Dental Mission（ジャパン　デンタル　ミッション）略称（JDM）』として新たにスタートすることとなりました。

NPO 法人に移行するにあたり、本会の活動指針を再確認することになりました。

1　歯科医療活動

バヌアツ共和国保健省の Dr を日本に招聘し今後の活動について検討を行った結果、現在活動しているマレクラ島に加えタンナ島でも活動を行う。

子供達への口腔衛生の啓蒙と管理。特にブラッシングの習慣と甘味の摂取のコントロールに焦点を置いて活動していく。

フィリピン共和国カオハガン島では、島民を対象としたブラッシングの習慣の確立と甘味の摂取とう蝕との関係について啓蒙していく。

両国での治療、検診結果より経年的に DMFT を報告して、今後の活動に役立てる。

2　文化活動

JDM では、お互い、特に子供達が相手の国々について興味を持ち「一度行ってみたいな。」と思ってくれたなら、それが文化交流の第一歩であると考えています。そのため JDM では、絵の具、画用紙、運動遊具などの寄付のみならず、それぞれの国の子供達との絵画の交換等を行っています。

異種文化を尊重し理解することが国際感覚を身につけることではないかと考えているためこの活動を継続していきたいと考えています。

3　青少年育成活動

JDM の活動の特徴として、ボランティア活動を通じて参加者スタッフの育成を考えています。ボランティアを通じての共同生活により参加者同士が話し合い、助け合うことで自分自身が救われ、社会の一員として自覚し悟ります。我々の活動は一言で言うと人類愛であり、愛とは行動であると思います

（2003 年事業報告書より抜粋）

バヌアツ共和国での活動

2000 年頃より、バヌアツ保健省からの要請で、マレクラ島だけではなくタンナ島でも活動することとなりました。

2004 年 7 月 16 日バヌアツ共和国保健省にて JDM 代表理事沢田宗久と同国保健省保健衛生局ジョージ・タリオ氏の間で、バヌアツでの歯科治療プログラムに対する合意と覚書の調印が行われました。

タンナ島はニューヘブリデス諸島の南方に位置し 28000 人ほどが生活する島です。火口まで近づくことが可能なヤスール火山が有名で、日本の番組でもしばしば紹介されています。テレビでは腰蓑をつけた原住民が登場しますが現地にそのような島民はおらず、T シャツ、短パン、サンダルで生活しています。

タンナ島での活動は国営のラナケル病院にて行われました。タンナ島に歯科医師は一人もおらず、歯科診療科もありませんが、日本の ODA による歯科診療台が設置された診療室があります。

ラナケル病院で治療を行うチームとともに、小学校の検診と文化交流の一環でサッカーボールなどの遊具、文房具などを寄付するチームに分かれ活動しました。バヌアツ政府関係者が運転するピックアップトラックに乗り、ジャングルの道を抜けると村が現れます。村の小学校を訪れると校長先生（一人しか先生はいませんが）以下生徒全員で歓迎してくれます。通訳を交えて挨拶し、寄付の贈呈式を行います。その際、子供達がバヌアツ国歌（You Me）を斉唱してくれたのが感動的でした。

タンナ島では 17年に渡り活動しました。宿舎はその時代によって変わり、バヌアツ政府関係者の一族の住む村にステイさせてもらったり、バンガローに宿泊したり色々ありました。私が参加した時、炊事は参加ボランティアメンバー田代（元 JDM 理事）らによる自炊でした。 現地調達した食材を中心に日本から持ち込んだ調味料を使用して3食提供してもらいました。村にステイさせてもらった時代は、提供した食材で村の住民がバヌアツ料理の夕食を作ってくれることもありました。食材は現地の青空マーケットにて購入するのですが、現地の野菜は全てオーガニック。野菜や果物の並べてある横に、豚の足や生きたニワトリ、Kava などが売っている様子は異国情緒あふれるものでした。

マレクラ島での活動は吉竹（元 JDM 理事）を中心に 2011 年まで行われました。マレクラ島ではモデル校を選択し、それぞれの学校で口腔内検診や口腔衛生に関する啓蒙活動を長年にわたって行ってきました。2004 年の報告書には『永年横ばいだった DMFT 指数（当時）が減少してきている』との内容を認めます。

また、バヌアツ共和国の歯科医療関係者の医学的レベルに問題があることもわかってきました。彼等自身の予防に関する専門的知識および他の歯科医学についての知識が非常に希薄であるため、啓蒙活動が進んで行かないこと考えられました。

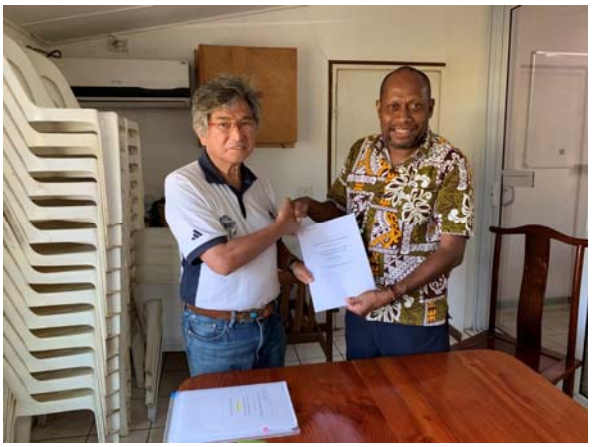
2008 年より医療関係者に対する実習を含めた歯科医療のセミナーを始めることになりました。JICA の協力などもあって行った当時の内容は以下の通りです

歯牙、歯周組織の解剖　30分
口腔内細菌について　30分
感染症としての齲蝕と歯周病の病院論　60分
齲蝕と歯周病の治療方法　60分
予防としてのブラッシング方法実習　30分

この事業は 2011 年で終了しましたが、年々参加者が増え一定の効果があったと思われます。

タンナ島での 17 年の活動を終え、2018 年よりペンテコスト島での活動をはじめました。ペンテコスト島は首都ポートヴィラ のあるエフェテ島の北、マレクラ島の北東に位置しています。世界的に有名なバンジージャンプはこの島のある部族の成人の儀式が発祥と言われています。

2017 年の活動時、JICA 職員のコーディネイトのもとペンテコスト島への視察を行いました。パンギーを活動拠点に治療と検診業務を行うことになりました。2018 年、2019 年と2回の活動を行いましたが 2020 年 2021 年はコロナ渦で中止となっています。



また、ポートヴィラ のセントラル病院に救急車を寄贈する計画も船便の目処が立たないため中断しています。

一方で、ペンテコスト島での活動について、JDM とバヌアツ保健省との間で新たな MOU（覚書）が締結され調印式が行われました。

フィリピン共和国での活動

フィリピン共和国カオハガン島での活動も、のべ 55 回（2018 年の時点）となりました。

当初は、少人数で始まった活動でしたが、徐々に参加者も増加してきました。また、山田ら（元 JDM 理事）が個人レベルで治療に行くこともありました。

現在は秋、初春と年2回活動しています。検診、治療のほか、小学校検診と紙芝居などによる口腔衛生教育、恒例となったビーチでのブラッシング指導を行っています。

小さい島という点を生かして、口腔衛生指導のための家庭訪問、15 人の子供の口腔内を数年に渡り追跡調査するなどの試みも行っています。（大西、倉橋ら JDM 理事）

また、ボランティア参加者主催による文化交流も長年にわたり継続しています。かつては参加メンバーによる、盆踊り（炭坑節）、サルサダンス、リンボーダンスなどの出し物や DVD の上映会などもありましたが、近年はポントグ（島にある砂浜）での『運動会』が定着しています。リレー、玉入れ、綱引き、パン食い競争ならぬスナック菓子食い競争、縄跳びなど多種目がありみんな大喜びで参加してくれます。子供だけでなく大人やたまたま来島している観光客も見学に来るのでポントグは大騒ぎになります。

長年の活動により、歯科ボランティアの噂は近隣に広まり周囲の島からも受診する人が増加してきました。

2019 年 3 月活動の島別患者数を見てみるとカオハガン 78 人、パンダノン 10 人、パガンアン 53 人、カブラン 19 人、

ナシンジン 25 人、サガン 14 人、アグス 12 人（島の名称です）などなどです。個々の島はローカルすぎてどこにあるかはよくわかりません。ネットで検索すれば JDM の HP が上位に現れてきます。

また、近年はスケーリングを希望する島民も増えてきており、意識の変化を感じます。当地の歯石は硬く、歯科衛生士達は腱鞘炎と筋肉痛と戦いながらスケーリングしています。

歯科技工士が参加できないときは新義歯製作を行っていませんが、義歯の修理依頼は多く寄せられます。どの義歯も丁寧に使用されており、当地における JDM の長期活動をうかがわせるものです。

フィリピン共和国では、カオハガン島以外で活動したことのない JDM でしたが 2014 年 9 月 10 日～9 月 15 日レイテ島タクロバン市にて活動を行いました。

2013 年 11 月台風30号（現地名ヨランダ）がフィリピンを襲い、レイテ島では死者 5755 人、負傷者 26123 人の大きな被害がありました。2014 年2月に沢田が現地視察しボランティア活動を実施することになりました。

現地ではタクロバン市警、自警団による警備の中、保健所や現地歯科医師会と協力して3日で 900 人余りの治療を行うことができました。

国内活動

現地での歯科医療が活動の主体ではありますが、バヌアツ、フィリピンの状態を知ってもらうため、JDM では以前より積極的に国内活動報告をしています。

活動黎明期は沢田が所属する大阪の船場ロータリークラブを主体にしていましたが、近年は、国際交流センターや歯科保健大会でのパネル展示、関西地区の小学校訪問を行っています。

JDM は大阪に本部がありますが、多くの人が全国から活動に参加しています。他地区の参加者から『JDM の活動を生の声で聞きたい』が増えてきたため、2018 年より伊藤、関根（JDM 理事）を中心に、東京で活動報告会を行いました。

特にバヌアツと関西地区の小学校間での絵画交換事業は 30 年以上にわたって継続しており、互いの文化についての理解を深める貢献を行っています。

八尾市の小学校では年3回にわたり『国際理解教育～バヌアツ学習を通して～』と題した課外授業に参加しています。沢田、栗山（JDM 副代表）が JDM の活動、バヌアツ、フィリピンの文化紹介、地球環境保全について児童に紹介して、共に考える時間を設けています。

SDGs が世界的に提唱されているなか、将来のためにこれらの活動はさらに継続していきたいと思います。

Team 助太達

2011 年3月 11 日の東日本大震災に対し『自分たちにできることを！』との思いを持った JDM 有志が立ち上がり、東北 JDM 会員、他都道府県歯科医師会、歯科衛生士、ボランティアと共に多くのご支援に支えられ、現地にて歯科医療のボランティアおよび医療品・その他生活必需品の配布運搬の手伝いをさせていただきました。この時の仲間の中には、その後レイテ島の活動やカオハガンに参加いただいた方もいます。

最後になりますが、長年にわたり活動に協力いただいている企業、各種団体、個人の皆様に改めて感謝申し上げます。 我々も当初の志を忘れず継続していきますので、今後とも JDM の活動に暖かいご支援のほどよろしくお願いいたします。

感謝状の謹呈

長年に亘りご寄付頂いています方々に感謝の意を表したいと考え、１０社を選び感謝状を作製致しました。
遠方の方には、送らせて頂きましたが手渡し出来る方には直接お会いして感謝の意を述べてお渡し致しました。
今年度はコロナ禍の為活動が出来なかったのがとても残念でした。又、活動が出来る日を楽しみにしています。

白水貿易（株）	代表取締役社長　中山　茂男
（株）トキワ	代表取締役社長　曽我　尚之
大日本除虫菊（株）	代表取締役社長　上山　直美
（株）サクラクレパス	代表取締役会長　西村　貞一
ＵＨＡ味覚糖（株）	取締役会長　山田　一朗
尾崎歯材（株）	代表取締役社長　松尾　健司
（有）ハマダデンタルサプライ	代表取締役　濱田　周一
（株）モリタ	代表取締役　森田　晴夫
デンタルプロ（株）	取締役会長　佐野　清
共和メディカル株式会社	代表取締役社長　杉浦　万正

2021 年度 海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事（活動）は、医療活動に限らず多種多様ですので、どなた様でもご参加可能です。
皆様のご参加をお待ちしております。
参加申し込みは当会ウェブサイトからお願いします。
http://www.japandentalmission.org

バヌアツ共和国

新型コロナウィルスの影響で国が閉鎖されているため、今年の活動は中止です。

フィリピン共和国

チーム名	日　程	締切日
１１月カオハガン島	２０２１年１１月２１日～２５日	２０２１年１０月８日
３月カオハガン島	２０２２年３月１７日～２２日	２０２２年１月２７日

＊状況により予定は変更します。

参加費用

	バヌアツ共和国	フィリピン共和国
科　目	金　額	金　額
航空運賃＊１	約２５万円	約８万円
滞在費	現地宿泊費、食費等	
海外旅行傷害保険代	希望者のみ各自負担	
ユニフォーム代＊２	３千円	３千円
合　計	約２６万円	約９万円

＊１：航空運賃は、時期により変動します
＊２：持っていない方のみ

ジャパン　デンタル　ミッションについて

Year	沿　革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてバヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“バヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、バヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	バヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン　デンタル　ミッション」に変更
2004	バヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン　デンタル　ミッション活動方針

1.　歯科医療活動

●バヌアツ共和国における歯科医療活動

ペンテコスト島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。

また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。

島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで

歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2.　文化交流活動

●絵画などの交換

バヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とバヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

その他、日本の伝統的文化を基に交流を行っています。

3.　生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、

学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4.　青少年育成

ボランティア活動に参加した若い学生達はプロのメンバーと共に活動し、助け合い、話し合ったりするうちに積極性や活力が付き、彼らの自己成長を養う為のお手伝いをしています。

協力者名簿

- (株)アド・ダイセン
- アベ・ラベリング(株)
- オーエム歯材(株)
- 大阪歯科大学　口腔衛生科
- 大阪市立開平小学校
- 大阪市立昭和中学校
- 大阪市立高津小学校
- 大阪市立玉造小学校
- 大阪市立中央小学校
- 大阪市立中大江小学校
- 大阪市立南大江小学校
- 大阪市立南小学校
- 大阪船場ロータリークラブ
- 大阪南太平洋協会
- 大阪府歯科医師会
- 尾崎歯材(株)
- 川西市歯科医師会
- 関西国際交流団体
- 関西学院中学部
- 清原(株)
- 共栄社化学(株)
- グラクソ・スミスクライン(株)
- 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- コクヨ S&T(株)
- サクラクレパス(株)
- 沢井製薬(株)
- 笹野電線(株)
- 澤田歯科
- サンスター(株)
- (株)システムつう
- (株)ジャックス
- シンク(株)
- 甚田会計事務所
- ｽﾎﾟｰﾂﾈｯﾄﾜｰｸｼﾞｬﾊﾟﾝ
- 住之江歯科医師会
- スモカ歯磨(株)
- セイコーエプソン(株)労働組合
- 全日本ブラシ工業協同組合
- 大日本除虫菊(株)
- 大平工業(株)
- 太洋旅行(株)
- 嶽北歯科
- タナベスポーツ(株)
- 株式会社ツサカ
- つるや(株)
- トキワ(株)
- 有限会社トリビ
- 南総工業(株)
- 西澤歯科医院
- クリエイト(株)
- 日本歯科医師会生涯研究課
- 白水貿易(株)
- ハグルマ封筒(株)
- (有)ハマダデンタルサプライ
- 樋口歯科医院
- 平田歯科医院
- 不二印刷(株)
- ﾍﾞﾘﾃｯｸ・ｱｲｺﾆｯｸｽ・ﾍﾞﾝﾁｬｰｽﾞ(株)
- 蛍印刷(株)
- モリタ(株)
- 八尾市立西山本小学校
- 八尾ロータリークラブ
- 八千代オート(株)
- ユー・エフ・オー(株)
- 陽春園(株)
- 吉竹歯科医院
- DENTRADE
- Greenpath Corporation
- JICAバヌアツ支所
- NPOセンター
- TKX(株)
- UHA味覚糖(株)
- ナカガワ(株)
- デンタルプロ(株)
- 共和メディカル株式会社

本年度寄付を頂いた皆様　　50音順

・大嶋　捷正
・金山　梨花
・舘野　征子
・守下　雅美
・馬淵　ひづる
・大西　富子
・㈲川田　川田昌美
・辻井　博
・金本　裕光
・田中　輝夫
・斧原　周子
・佐藤　佳子
・西村　文延
・溝畑　史子
・片岡　清夫
・三皷　真司
・藤本　茂子
・横山　瞭一

役員紹介

代表理事

沢田　宗久	澤田歯科（歯科医師）

副代表理事

栗山　雅行	ﾍﾞﾘﾃｯｸ・ｱｲｺﾆｯｸｽ・ﾍﾞﾝﾁｬｰｽﾞ㈱（ボランティア）

理　事

河内　光明	澤田歯科　（歯科技工士）
上崎　秀美	（歯科医師）
田中　良明	上り口歯科医院（歯科技工士）
吉井　照子	（ボランティア）
富田　真仁	富田まひと歯科（歯科医師）
倉橋　朋子	塩井歯科医院（歯科衛生士）
関根　淳	関根歯科医院（歯科医師）
伊藤　玲	あきら歯科（歯科医師）

監　事

甚田　隆康	甚田総合会計事務所（ボランティア）
北野　克己	株式会社北野商店（ボランティア）

2021 年 6 月 12 日発行　発行者：NPO 法人ジャパン　デンタル　ミッション

〒542-0085　大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28　心斎橋コアビル　澤田歯科内

TEL：06-6252-0118

URL：http://www.japandentalmission.org　E-mail：info@japandentalmission.org

＊本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。

バヌアツ　ペンテコスト島